

令和6年6月議会 宇都宮市議会定例会報告

一般質問
一問一答方式

中塚英範

質問項目

1 災害時の安全・安心の確保について

- 1) 避難所の開設
- 2) 避難生活における安全・安心の確保
- 3) 福祉避難所

2 困難を抱える女性への支援について

- 1) 「困難な問題を抱える女性への支援に関する法律」に基づく取組
- 2) 宇都宮市つながりサポート女性支援事業

3 宮っこを守り・育てる都市宣言の具現化について

- 1) 宮っこを守り・育てる都市宣言の周知啓発
- 2) 子どもの意見表明権



中塚英範市議
録画配信HPのQRコード

4 福祉的視点による住宅政策について

- 1) 住宅確保要配慮者への支援
- 2) 市営住宅居住者の住環境問題と住み替え

5 誰もが自由に移動できるまちづくりについて

- 1) バス事業者への支援
- 2) 地域内交通の在り方
- 3) 子どもの移動支援

質問及び答弁(抜粋)

1 災害時の安全・安心の確保について

3) 福祉避難所について

Q 私は能登半島地震の被災地で状況把握とニーズの聞き取りボランティアを行ったが、福祉避難所を知らない人が大半だった。そこで、今回の質問にあたり宇都宮市内3つの障がい者施設の利用者家族と職員を対象にアンケートを実施したところ、利用者家族で「福祉避難所の存在を知っている」は、35名中7名、内、「避難する福祉避難所を知っている、決めている」は1名のみだった。この結果が全体的な傾向だとすれば、福祉避難所を必要とする方の大半が、その存在を知らないことになるため、現在の認知度を正確に把握するとともに、要配慮者を支援する団体等と連携して周知徹底を図るべきと考えるが、見解を伺う。

A 【保健福祉部長答弁】令和5年度の世論調査では災害時の避難場所を確認できている市民の割合が51.5%であり、福祉避難所の認知度も同様と考えられる。福祉避難所のさらなる周知を図るため、現在取り組んでいる市HPや防災出前講座等に加え、新たにチラシを作成・配布するとともに、障がい者団体等に協力頂き周知を強化していく。

【要望】福祉避難所の認知割合が私の調査と市とでは乖離していたため「市の世論調査は一般の避難所の話であり、福祉避難所の認知度につながるとは言えない。この点をしっかり認識して調査すること」を強く要望した。

Q 本市の福祉避難所は一般避難所の一画に設置されることから、精神に問題を抱える方や多人数が苦手な方は避難生活を送れず、必要なケアも受けられない現状にあるので、早急に民間社会福祉施設等との災害時協定を拡充し、要配慮者向けの福祉避難所を増設させるとともに、平時から受け入れに関する事前調整をすべきと考えるが、見解を伺う。

A 【保健福祉部長答弁】現在、43の民間福祉施設と災害時協定を締結しており、拡充に取り組んでいく。災害発生前の事前調整は、災害発生時には民間福祉避難所の受入人数が限られ、保健師等の意見を基に入所調整するため難しい。

【用語説明】「福祉避難所」とは、主として高齢者、障がいのある方、乳幼児等、特に配慮を要する方のための避難所を指します。

一般質問
一問一答方式

大久保順也

質問項目

1 市長の政治姿勢について

- 1) 陽南ブルー跡地の利活用
- 2) 駅のバリアフリー化

2 ライトラインについて

- 1) 開業1周年記念事業
- 2) 利用促進
- 3) 混雑状況への対応

3 カーボンニュートラルの推進について

- 1) トランジットセンターへの充電設備の設置
- 2) ごみの削減

4 レンタサイクル事業と市営駐輪場について

- 1) 今後のレンタサイクル事業
- 2) 市営駐輪場の利便性向上



大久保順也市議
録画配信HPのQRコード

5 防災の取組について

- 1) 市民の防災意識の向上
- 2) 防災備蓄品

質問及び答弁(抜粋)

1 市長の政治姿勢について

2) 駅のバリアフリー化について

Q 江曾島駅のバリアフリー化については、駅の利用者数のみで判断するのではなく、未来の都市形成の観点から、県と連携して事業者に積極的な働きかけが必要であると考えているが、見解を伺う。

A 【総合政策部長答弁】江曾島駅を含めた、その他の駅についても鉄道事業者に対しバリアフリー化に向け要望書の提出や意見交換を県と連携して継続的に行ってきた。鉄道事業者からは、引き続き国の示した条件を満たした駅から優先して進める方針との回答を得たが、現在策定を進めている「第2次宇都宮都市交通戦略後期計画」において、鉄道駅を含めた「交通施設のバリアフリー化の推進」を施策事業に位置付け、県とも連携し鉄道事業者に働きかける。

5 防災の取組について

1) 市民の防災意識の向上について

Q 防災訓練への参加者数を増やし、地域住民の防災意識を高めるため、他都市の防災訓練の好事例を提供するなどの支援や、オンラインやVRを活用した新たな防災イベントの開催が必要であると考えるが、見解を伺う。

A 【市長答弁】本市では、県内外の様々な防災訓練の事例や先進的事業について、各地区に情報提供するほか、防災フェアなどの各種防災イベントを開催し、市民の防災意識の向上を図ってきた。今年度は、イベントがさらに充実するよう、自分のいる場所が災害現場となり、リアルな体験が出来るAR技術を活用した新たな防災教育ツールの導入を進めるほか、宇都宮市自主防災会活動補助金の上限額を1地区10万円から20万円に増額し、地区防災訓練の実施と防災資機材整備への支援を拡充する。また、本年7月から新たに栃木県のVR防災体験車の貸し出しが可能となるため、各地区の防災訓練や防災イベントで活用していただけるよう、借受け体制を整えるなど、市民の防災意識を高め、多くの方に防災訓練に参加いただけるよう、関係部署と密に連携し、積極的な支援に努めていく。

【用語説明】AR(Augmented Reality: 拡張現実)とは、シミュレーションした環境で現実の環境を拡張するテクノロジーです。対してVR(Virtual Reality: 仮想現実)とは、環境全体をシミュレーションし、ユーザーの世界を仮想的な世界に置き換えるテクノロジーを指します。

一般質問
一問一答方式

横須賀咲紀

質問項目

1 若者に対する広報広聴機会の拡充について

- 1) 市政に関する世論調査
- 2) miyaユースポストのさらなる活用

2 若者まちなか活動・交流センターの運営について

3 無電柱化について

4 建築物の管理不全に伴う安全対策について

5 東部総合公園について

6 不登校対策について



横須賀咲紀市議
録画配信HPのQRコード

7 選挙投票率の向上について

質問及び答弁(抜粋)

5 東部総合公園について

Q 令和8年に東部総合公園の開業が予定され、その中にスケートパークが設置されることとなっている。公募設置等指針には「初心者コースをメインコース」と記載されているが、事業者の提案を見ると、国内外の大会を開催できるレベルのコース設計となっており、上級者向けとなっているように思えるが、改めて、このパークのコンセプトを伺う。

A 【都市整備部長答弁】本公園のスケートパークについては、全天候型として国内有数の規模となる約3,000平方メートルの広さを有する施設であり、このうちの約1,600平方メートルのエリアは、競技を始めたばかりの方も利用できるフラットなコースや、緩やかな傾斜台などを設けた初心者向けのコースとしている。また、残り約1,400平方メートルのエリアは、ストリートコースを含む中・上級者が十分に楽しめる構成となっており、スケートパーク全体が国内外の大規模な大会やイベントなどの開催にも対応できる凡庸性の高いコンセプトとなっている。十分に

活用できるよう、施設の開園後は、スケートボードの体験会や競技レベルに応じたスクール等を定期的実施するなど、競技の拡大を図り、子どもたちが夢や憧れを持ってもらえるよう取り組んでいく。



7 選挙投票率の向上について

Q 宇都宮市選挙管理委員会や関係団体と連携して選挙啓発などを行う「宮せんきょ crew」を創設したが、参加者の自主性を最大限に活用させるため自分たちで活動内容を決め取り組むことができるようにすることが望ましいと考えるが、見解を伺う。

A 【選挙管理委員会委員長答弁】公平・公正な選挙を推進するために活動には一定の制約があるが、クルー一人ひとりの意欲をできるだけ生かしていくことが、より効果的な取組に繋がるものと考えており、それらを最大限生かせるよう支援していく。

私たちは皆様の声を市政に活かします!!

次回 令和6年9月議会質問予定者
郷間康久・高橋英樹・佐藤孝明